

とどろく炎の鼓動！

数十秒の舞いに

命をかけて



夢はおばあちゃんになっても
手筒花火を上げ続けること

津のゆるキャラ
みずぎんが好きで
グッズを集めています！

令和6年10月13日、初めて手筒花火を上げた津まつりにて撮影

美杉手筒会 ^{たね はし}種橋 マミ さん

1981年生まれ、四日市市在住。25年の歴史がある美杉手筒花火の担い手として活躍中。同会のInstagramを立ち上げ、広報活動も行う。練習や打ち合わせのため、四日市から美杉まで毎週通うことも。

このまち
津市で輝く

vol. 103

長さ1mの竹筒に火薬を詰め、人が抱えて噴出させる手筒花火。吹き上がる火柱は10mを超え、1000度の火の粉に耐えながら炎を上げる。津市唯一の手筒花火の揚げ手である美杉手筒会で、初めての女性揚げ手となったのが種橋さんだ。

種橋さんは祭巡りが好きで、県内の多くの祭を訪れていた。「15年前、美杉手筒会の手筒花火に出会い、その迫力と美しさのとりこになりました。命の危険を伴う花火だとは知っていましたが、自分もやってみたいと思いました」と当時を振り返る。

昨夏、美杉夏まつり納涼花火大会の終了後、美杉手筒会に直談判。念願の揚げ手となった。

その2カ月後、津まつりでの初舞台が決まった。練習に練習を重ね、自らが上げる手筒花火は自らで作るという習わしのもと、竹の切り出しから火薬を詰めるまで、先輩に教わりながら手筒花火を作った。

そして迎えた当日。夜のとぼりが下りたお城公園。抱える手筒花火に火が付いた。怖さはなかった。降り注ぐ火の粉は熱かったが、その向こう側にいる、たくさんのお客の笑顔が鮮明に見えたことが印象的だった。

「揚げ手にしか見ることができない光のトンネルに立てたことが、涙が出るほどうれしかった」と語る熱き炎の担い手は、今年も津まつりでその勇姿を見せる。

津市民くらしの安心インフォメーション



医療



受診可能な医療機関を知りたいとき

三重県救急医療情報センター

☎059-229-1199

24時間

年中無休



医療ネットみえ

応急措置方法の案内や健康相談

津市救急・健康相談ダイヤル24

☎0120-840-299

24時間

年中無休

通話無料

夜間・休日の
発熱や体調不良のとき

津市の応急診療所



市ホームページ



災害

避難所



ハザードマップ

